

令和4年第1回定例会 経済建設常任委員会審査記録（第1日目）

- 1 日 時 令和4年3月11日（金） 午前10時00分
- 2 場 所 市役所 第一委員会室
- 3 議 題 議第38号 村上市観光案内所条例の一部を改正する条例制定について
議第9号 令和4年度村上市蒲萄スキー場特別会計予算
- 4 出席委員（6名）

2番	山田 勉 君	3番	大滝 国吉 君
4番	菅井 晋一 君	5番	尾形 修平 君
6番	川村 敏晴 君	7番	川崎 健二 君
- 5 欠席委員
なし
- 6 傍聴議員（6名）

上村 正朗 君	富樫 雅男 君	高田 晃 君
小杉 武仁 君	河村 幸雄 君	渡辺 昌 君
- 7 地方自治法第105条による出席者
議長 三田 敏秋 君
- 8 オブザーバーとして出席した者
なし
- 9 説明のため出席した者

副 市 長	忠 聡 君
農林水産課長	稲垣 秀和 君
同課農業振興室長	中川 博之 君
同課農業振興室係長	菅井 学 君
同課林業水産振興室長	伊藤 幸夫 君
同課林業水産振興室副参事	臼井 信一 君
農業委員会事務局長	小川 良和 君
地域経済振興課長	田中 章穂 君
同課経済振興室副参事	玉木 善行 君
同課経済振興室係長	鈴木 清美 君
観 光 課 長	永田 満 君
同課観光交流室長	片岡 昌幸 君
同課観光交流室係長	船山 ケイ子 君
荒川支所産業建設課長	渡邊 修 君
神林支所産業建設課長	斎藤 雄一 君
朝日支所産業建設課長	加藤 泰 君
同課産業観光室長	高橋 和憲 君
山北支所産業建設課長	小田 和弘 君
- 10 議会事務局職員

局 長	長谷部 俊一
書 記	中山 航

（午前10時00分）

委員長（川崎健二君）開会を宣する。

○本委員会の審査については、審査日程どおりに進むことに異議なく、そのように決定する。

日程第1 議第38号 村上市観光案内所条例の一部を改正する条例制定についてを議題とし、担当課長（観光課長 永田 満君）から議案の説明を受けた後、質疑に入る。

（説明）

観光 課長 おはようございます。それでは、議第38号 村上市観光案内所条例の一部を改正する条例制定についてご説明いたします。本案は、鍛冶町に所在する村上市コミュニティデイホームを高齢者施設から観光施設へ用途変更することに伴う条例の一部を改正しようとするものである。村上市コミュニティデイホームは寄附を受けた施設であり、高齢者の生きがい活動等の拠点として平成11年10月に開設された高齢者施設であるが、市街地の中心部に位置しているため、観光客のお休み場所としても利用している。また、歴史的風致形成建造物に指定されている建物でもあるため、観光案内所や休憩所などとして整備することにより、町屋観光の拠点として有効活用を図ろうとするものである。説明は以上となる。よろしく願いいたします。

（質疑）

尾形 修平 この施設は鍛冶町にあって、本当にこれから今人形さまとかでも利用されると思うのだけれども、年間の利用実態についてちょっと説明願いたいと思う。

観光 課長 今現在の利用実態でよろしいか。令和2年度が施設利用者について865名ということなのだけれども、これはコロナによって減少している。その前の平成30年度だと2,845名という利用者がある。そのほかに観光客等の訪問者が3,000人程度いる。

尾形 修平 この施設は、たしかレクリエーション協会のほうに今指定管理で出していると思うのだけれども、指定管理者が独自でやっているような自主事業というのか、そういうのというのはあるのか。

観光 課長 今現在介護高齢課のほうで所管しているけれども、介護予防だとか、そういったもののレクリエーションとか簡単な体操とか、そういったもので利用しているというふうに聞いている。

尾形 修平 それを含めてさっき言った利用者の延べ人数なのだよ、それ。

観光 課長 すみません。先ほど申し上げた平成30年度で2,845名と言ったけれども、そちらのほうは介護関係の施設利用者ということである。それ以外の、平成30年度であると8,000人程度、7,000人から8,000人程度は訪問客、観光客等の利用になっている。

（自由討議）

（「なし」と呼ぶ者あり）

（討論）

（「なし」と呼ぶ者あり）

以上で質疑を終結し、自由討議を求めたが自由討議なく、討論を求めたが討論なく、起立による採決を行った結果、議第38号については、起立全員にて原案のとおり可決すべきものと決定した。

日程第2

議第9号 令和4年度村上市蒲萄スキー場特別会計予算を議題とし、担当課長（観光課長 永田 満君）から説明を受けた後、質疑に入る。

（説明）

観光 課長

それでは、議第9号 令和4年度村上市蒲萄スキー場特別会計予算についてご説明いたします。予算書の266から268Pを御覧いただきたいと思う。歳入歳出とも5,370万円を計上している。前年度と比較いたして750万円ほどの増額となっているが、これについては地方債償還元金の増が主な要因である。歳入歳出の内訳についてご説明いたします。269P、270Pを御覧ください。初めに、歳入についてであるが、令和4年度の営業については12月24日から令和5年の3月5日までとして、今年度同様72日間の開設期間として予定している。1款のスキー場売上金、それから2款の一般使用料はリフトの使用料であるけれども、例年の実績を踏まえて計上させていただいている。3款の一般会計繰入金で766万1,000円の増額となっている。5款の雑入については、それぞれ前年度の同額を計上している。次に、歳出についてであるけれども、271P、272Pを御覧ください。1款1項1目一般管理費の説明欄を御覧ください。説明欄1、蒲萄スキー場一般経費については、安全統括管理者の報酬をはじめ、一般的な管理運営経費について例年並みに計上させていただいたものである。説明欄の2、蒲萄スキー場運営経費では、事務補助員及び現場作業員の賃金をはじめ、例年並みの運営経費を計上させていただいている。工事請負費については、726万円を計上しているけれども、内容といたして第1ペアリフトの線路金物整備及び第2ペアリフトの制動装置の整備を予定している。次に、2款の公債費についてであるが、271P、272Pと次の273P、274Pになる。1目の元金の起債償還元金は902万9,000円であり、前年よりも769万8,000円の増額となっているが、これは平成27年度のスキー場山麓トイレの改修工事に加えて、平成29年度のスキーセンターの改修と圧雪車の購入によるものである。また、2目の利子1万5,000円については、今ほど申し上げた元金に基づく利子分の合計となる。それから、予備費といたして20万円を計上させていただいている。説明は以上である。よろしく願いいたします。

（質疑）

大滝 国吉

期間が72日間ということで、今年と同じような期間で計画されるというのだが、6日で終わったのだが、今年も雪がいっぱいあって、まだできるような状態なのだが、これ以上やっていると経費がかさんでできないというようなことでこういうふうな計画になっているのか。

観光 課長

近年大体同じ時期に、12月の終わりから3月の頭ぐらいまでということでやっているけれども、経費の関係と、あと雇用の関係もあるので、だんだん春になると従業員の方も、例えば農家の方、農作業始まったりということもあるので、今の期間で設けるものだと思っている。

大滝 国吉

毎年の雇用関係では苦慮しているのか。どういうふうな状況なのか。

観光 課長

特に技術関係の索道技術員だとか、圧雪車、技術必要な方については非常に苦慮しているところである。

大滝 国吉

圧雪車の運転というのは、何か技術的な免許というの也要るのか。

観光 課長

特に必要はないようなのだけれども、やはり傾斜あるし、毎日雪質の状況も違うので、やはりある程度熟練した技術がある方でないと難しいかと思っている。

大滝 国吉

今終わってからスキー場の下のほうをならしたり掘ったりしているの、あれは何で

- あんなことをしているのか。
- 観光 課長 これから雪がだんだん緩んでくるけれども、雪崩とか崩れたりしないような状況の作業をしている。
- 大滝 国吉 あと、今までもスキー場の運営、これからのことについて、市長も今年度に一度そういうふうな計画を立てるということで再三言っておられるが、スケジュールとしてはこれからどのような計画を持っているのか。
- 観光 課長 今年度、令和3年度も市内の関係課で協議は進めているが、引き続き協議をしながら、関係者とも含めてある程度令和4年度中には方向性のほうを決めたいと思っている。
- 大滝 国吉 集落の協議会みたいなのもあって、この前もうちらの委員会でも話しさせていただいたのだが、その中の協議会の中では、このスキー場についてどんなような感触をお持ちか。
- 観光 課長 まだ具体的に今後の方向性とかという話はしていないけれども、やはり協議会としては有効活用を図りながら続けていきたいという意見が多いかとは思っている。
- 大滝 国吉 これから1年かけてやるわけだが、副市長、地元の意見もいろいろ聞きながら、やっぱり周りのほうともそうだし、今本当に赤字が続いて、運営的には非常に厳しいのだかもしれないが、でもその反面もうここでこういう地域になければならない施設でもあるということも考えながら、あらゆる人との相談しながら、決定をさせていただきたいと思うが、その辺のところを。
- 副市長 委員のおっしゃるとおりかというふうに思う。本会議でもこの件については質問もいただいたところである。地元の方々の雇用の中にもあるし、今観光課で所管している観光施設ということではあるけれども、小学生の体験学習もあるし、社会教育施設としての要素も大きいものがあるかなというふうにも思っている。公共施設マネジメントプログラムでも示してあるように、令和4年度中には方向性を出すということで議論を進めている最中であるので、今委員おっしゃるような地元の方々のご意見も含め、あるいはこのスキー場がいいのだということファンの方々もいっぱいいらっしゃるわけであるので、そういったお声も十分考慮しながら、検討を進めていきたいというふうに思う。
- 大滝 国吉 最後に、仮にあのスキー場を廃止した場合、地元にも全部返さなければならないようになっているようだが、そのときにスキー場を解体して全部更地にして返した場合の試算とか、そういうのは見積りとかはしたことがあるのか。
- 観光 課長 今現在いろんな選択肢を含めて検討しているので、建物の解体についても、概算だけれども、確認はしている。
- 尾形 修平 このスキー場の問題に関しては、もうさんざん本会議でも質問してきたし、あれなのだけれども、これ令和7年に一応契約の更新ということで先般答弁いただいたけれども、今回リフトの修繕費ということで720万円ほどの経費が盛り込まれているが、この先仮に来年以降も、令和4年度中に結論出すということなのだけれども、仮に来年からやめるというふうな私は方向性にはならないというふうに思っているのだ。その中で、仮にこれ以上の修繕費とか突発的な経費が発生した場合のことも想定されて今現在議論されているか。
- 観光 課長 突発的な把握できない部分もあるけれども、ある程度想定した部分については検討しながら、想定しながら検討はしている。
- 尾形 修平 今回リフトの修繕費も私が思うに必要な最低限の修理にとどめているのかなというふ

うに思うのだ。今後継続していくという方向になった場合は、今以上の費用が多分発生するのだというふうに思う。その辺も全て検討されているのだろうけれども、先ほど大滝委員から指摘あったように、仮に契約を解除するというようになったときの原状復旧の範囲、当然リフトとか、さっき言ったロッジとかの撤去はあるのだろうけれども、例えば駐車場とかのり面の植林とか、そういうことの復旧方法についてまでは地元のほうとの協議はされているのだろうか。

観光 課長 まだ今現在廃止ということで決めていないので、そこまで具体的なところまでは地元の方とは話をしていないが、内部の中では想定される部分については検討はしている。

尾形 修平 これ土地使用貸借契約するときに、基本民間であれば、当然造ったものは原状復旧で返すというのが常だと私は思っているの、その辺協定というか、契約の中にもうたっているはずなので、それを聞いているのだ。

観光 課長 契約上は原状復旧とまでしか書いていないので、具体的なところまでは書いていないので、そこは今後の協議になるかと思う。

尾形 修平 それでいいのだろうかけれども、だからさっきから大滝委員も言っているように、仮に廃止の方向になるということになると、やっぱり復旧の仕方なんかも議論をしておくべきではないかなと私は思うのだ。このスキー場が未来永劫続くなんていうのは、多分村上市民誰も思っていない、はっきり言って。それこそ持続可能なまちを目指していく村上市があつたスキー場をこの先30年も40年もなんていうことは、誰も思っていないはずなの。だから、そういう議論もやっぱり地元としていくもう時期に来ているし、それも含めて令和4年度中に結論出すということなのだろうから、しっかり議論をしていただきたいなというふうに思うけれども、副市長、いかがか。検討の中身は、今課長からも申し上げているように、あらゆる選択肢があるということの中で、確かに廃止ということもその選択肢の一つであることは確かだ。ただ、どういう撤退方法があるのかというところの具体的な詰めまでは確かに至っていないので、これやっぱり地元の方々との協議を重ねながら、方向性を見いだすということになるので、今までなかなか触れられてこなかった部分でもあるので、そこはしっかり詰めながら検討を進めていくということを進めていきたいというふうに思う。

菅井 晋一 参考までにお聞きしたいのだが、今年の、令和3年度の売上げというか、スキー場の使用料とか雑入とかはどういう、営業一応終わったので、教えてください。

観光 課長 すみません、ちょっと売上げのほう、資料手元にないのだけれども、人数でいうと今回12月の30日から3月6日までなのだけれども、7,630人というような利用をいただいている。これ前回営業した平成30年度と比べると大体85%ぐらいの人数になっている。売上げについては、すみません、後ほどお知らせいたしたいと思う。

菅井 晋一 参考までになのだけれども、スキー客とスノーボードのお客と、割合というのはおおよそどんなものか。

観光 課長 すみません、割合ちょっとはつきり分からないのだけれども、ただ言えるのがオリンピック、2月11日か、平野歩夢選手金メダル取ってからはかなりスノーボードを利用されるお客様が増えて、レンタルのほうも大分なくなったような状況があるということは聞いている。

尾形 修平 今年予算に関しては反対するものではないのだけれども、一昨年は少雪でスキー場オープンできなかったし、去年はコロナの関係でできなかったということで、こ

れ本当に天候に非常に左右される施設なので、リフトの補修に関しても、コロナの関係とか天候の長期予報なんかも含めて、なるべくであれば、リフトをオープンに間に合うぐらいぎりぎりまで引っ張るといふか、状況を見極めるといふタイミングといふのは大体どのぐらいをめどにされているのだろう。

観光 課長 そのときの工事の内容によって部品の発注の状況だとか工期の関係があるけれども、大体例年だと夏、8月ぐらいにはやるか、やらないかといふような判断はしている。

尾形 修平 本当に、あまり言いたくないけれども、仮に今年といふか、令和4年度、一昨年みたいに少雪でオープンできないといふような状況になると、いわゆるかけるお金がどぶに投げるようなお金になってしまうので、その辺十分に今言ったみたいに、できるだけオープン近間まで引っ張れるのであれば、私はそうしていただきたいといふふうに思うし、今までそれこそ協議会の方とも随分議論を重ねてきた中で、やはり経費の削減、言ってみたら地元の土地の借上料の削減とか、そういうのも私は本当に全てやった中でこうやって予算で上がってくるのだったらいいけれども、もう十何年間ずっと議論してきた中で、何もそれこそ経費の削減がなされていないことは非常にじくじたる思いがはっきり言っているとあるのだ。だけれども、やっぱり地元の方の思いもあるだろうし、突然市のほうのやつを、令和7年までの契約を途中で解消するといふのも何だろうし、そういうのも十分に考えていただきたいと思うし、ただ1点、協議会の方と先般お話しさせていただいた中で、課長が言われるように、地元の方の意向といふのは、あくまでもこの施設は村上市のものなのだから、村上市が考えればいいといふ考え方だ。多分一緒に聞いた委員の方は、同じ感覚持っていると思うけれども、そもそも地元がどうしてもこの施設を残してもらいたいといふふうには私は感じなかった。以上だ。

川村 敏晴 私もこの葡萄スキー場をできれば存続してほしいという思いでいるし、その立場で聞かせていただくが、ちょっと教育委員会の人いなくてあれなのだけれども、学校利用のものがあるが、これは今年度でもいいのだが、何回くらい、延べ何校で何人くらい利用されているか分かるか。ざっくりでいい。

観光 課長 今年度については、当初8校で19回の申込みあったのだけれども、まん延防止等措置が発令されて、その後キャンセルが出て、実際実施したのが5校の9回となっている。

川村 敏晴 今後コロナがこのまま続くといふふうなことは抜きにして、スキー人口の拡大にはやはり、スポーツ全体に言えることなのだけれども、少年期からそのスポーツに親しむといふふうなことで、学校教育の中で利用されることが非常にベストだなとは思っている。ただ、教員さんの働き方改革も含めてスポーツ指導者の数の低減、特にスキーということになると地元新潟でもなかなか生徒に指導するくらいのレベルといふと大変少ないのだろうと思う。昔ほどいないかなといふ中で、これはスポーツ全般に言えることだが、少年指導の中に学校で指導するスキーの指導者、これは観光課というよりもやはり生涯学習課、学校教育課との連携がもう必須だと思うのだよね。そんな立場で、ここは副市長しかいないのだけれども、ぜひ社会体育、今総合型スポーツクラブも含めて、そういう体制をしっかりと充実させないと、幾ら存続させよう、スキー人口を増やそうといっても、底辺の部分で地元利用者が増えていかないと思う。私らも子ども、小学校の頃は地元スキー場が、梨木の小さいところなのだけれども、学校でいろんな指導をやっていくと、親が子どもたちに誘われ

てついて行くのだ。そんなことで非常に盛り上がっていた時代を感じるので、やはりそういう部分、雪国の一つのスポーツとしてスキー人口を増やしていく、そういう施策について副市長の思いというか、計画あったらお聞かせください。

副市長

今シーズンの小学校の授業としてのスキー場利用は、今申し上げたとおりだ。来年度予算上は、学校教育課では小学校2校を県の支援をいただいて計画をされているようだけれども、それは予算上2校ということなのであって、開設があれば、その他の学校もスキー授業として利用いただけるものというふうに考えている。ただ、県からの支援については、一応令和4年をもって一巡したというふうなことも聞いている。もう一つは、副委員長さんおっしゃるように、社会教育施設としてのやっぱり役割も大変大きいものがあるというふうに思っている。当然小学校のスキー授業にも総合型スポーツクラブの指導者をはじめ、一般の社会人の方も協力いただきながら指導に当たっていただいているし、そういった利用をさらに今後どう進めていけばいいのかということもやっぱり併せて今回の検討の中に十分踏まえて検討させていただきたいなというふうに考えている。

川村 敏晴

ぜひ、私も含めてだけれども、スキー、体で覚えると、年取っても一応滑れるのだけれども、そういう利用を呼び起こすためにも子どもたちのスキー指導を通じて、ぜひスキー人口を増やすような施策を取っていただきたいとお願いして、これで終わる。

(自由討議)

(「なし」と呼ぶ者あり)

(討 論)

(「なし」と呼ぶ者あり)

以上で質疑を終結し、自由討議を求めたが自由討議なく、討論を求めたが討論なく、起立による採決を行った結果、議第9号については、起立全員にて原案のとおり可決すべきものと決定した。

委員長（川崎健二君）散会を宣する。

(午前10時37分)